

早期に取り組む集落ぐるみのワイヤーメッシュ柵設置計画

しんみなみさわ

栗原市高清水新南沢地区

地区の概要

対象
獣種

イノシシ

- ・世帯数 80 軒弱。
- ・取組主体は、新南沢土地改良事業共同施行組合。
- ・組合の所有は 19 名（うち 2 名は大崎市古川）。
- ・組合の圃場に耕作放棄地はなく、水稲田と一部が転作牧草地。
- ・昭和 50 年に圃場整備し、約 20 町歩ある（約 23.21ha）。

取り組み前の状況

● 環境

- ・高清水新南沢地区は、奥羽山脈から東側の平野部に伸びる、なだらかな山地のほぼ先端に位置しており、河川沿いの平坦な圃場地帯から見ると、少し高い位置にある。地区の西端には、その山地を分断するように南北に東北自動車道が通っており、これによって東西で鳥獣の出没状況に違いが出ていると考えられる。
- ・圃場は、ほぼ平坦でまとまっているため、住民の意向に応じて個別柵から広域柵まで様々な案が考えられる環境である。
- ・中央を横断する道路は、市道のため塞ぐことができず、市道に面する北側の圃場のほとんどは、市道の法面に接しているため柵が設置できない。
- ・圃場地帯とは反対に、集落は田畑と林などが混在した環境で、耕作放棄地は住宅周辺で見られた。



平坦な圃場と中央を横断する市道

● 被害と対策

- ・令和 2 年度の冬から令和 3 年度の春頃にかけての時期以降、イノシシが水田を掘ったり通ったりした跡が見られるようになった。
- ・被害はまだなく、イノシシを目撃した人もいない。
- ・東北自動車道の西側では、イノシシやツキノワグマ、タヌキなどの農作物被害、交通事故が発生している。
- ・高清水支所管内では、わな猟免許 3 名、銃猟免許 3 名（うち両方の免許所持者が 2 名）
- ・くくりわな 15 基を 3 名で管理している。箱わなはこれから。
- ・今年度から初めて通年で有害鳥獣捕獲許可を出した。



畦畔の掘り起こし

取り組み内容

R3

ワークショップ① 対策の基本を学ぶ研修会

- ・生態や対策の基本などについての座学研修を開催。
- ・地区ではこれまで、あまり馴染みのない話であったため、周辺の鳥獣被害や対策状況なども住民と共有した。



ワークショップの様子

取り組み内容

R3

集落点検

R3

ワークショップ② 対策案の検討

- 被害状況や移動経路、誘引物などの現状を把握するため、集落内を点検。
- 柿や栗、農作業で出たゴミを溜めている場所があったため、イノシシやツキノワグマ、ハクビシンなどの誘引元になることを説明した。
- 現地で記録した情報を地図に落とし込み、現状を共有した。
- 作成した集落点検マップをもとに、圃場を広域に囲う方法やグループに分けて囲う方法、住宅地も一緒に囲う方法など、複数の対策案を図化して検討した。
- 検討の結果、市道沿いに柵を設置できないことから、住宅地を除いた圃場地帯を広域に囲うこととなった。



作成した集落点検マップ

複数の対策案を図に示すことで
対策のイメージがしやすくなる！



提案した対策イメージ案

R3

ワークショップ③ 対策計画の作成

- 計画の最終決定の前に、大崎市岩出山下真山地区のワイヤーメッシュ柵を視察して、設置イメージを共有した。
- 地区に戻って詳細な設置ルートとゲート位置、ゲート幅を決定し、令和4年度に約3.4kmのワイヤーメッシュ柵を設置する計画となった。
- 最後に、事前の設置位置の整地作業や設置作業などのスケジュールを確認した。



視察先のワイヤーメッシュ柵



計画図 (図中の距離は地形の起伏などを考慮していない)

R4

フォローアップワークショップ

- 継続的な対策を支援するため、ワイヤーメッシュ柵の設置指導と設置作業前のルート整備状況調査を行った。
- 設置予定ルートは事前に伐採されているなど、ほとんど問題はなかった。
- 設置指導は実際の設置ルートで行い、地際の隙間もなく丁寧に設置することができた。高清水新南沢地区は、ほぼ平坦で難しい地形が少ないことから、このように適切な設置をすることができれば被害は高い確率で防ぐことができると考えられる。

事前に整備された設置ルート



設置作業の様子

成果と取り組みのポイント

圃場環境に合わせた設置ルートの選択

高清水新南沢地区は、圃場の中央を横断している市道沿いに柵を設置できなかったこと、圃場が平坦でまとまっていたことなどから全体を大きく囲う（広域柵）ような設置に至った。傾斜や設置幅、土地の所有者の許可など、柵の設置条件を理解した上で計画を立てることで、効果的な設置が可能となる。河川沿いなどは特に注意が必要である。